

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第248回

パール・バック

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和3年4月30日

編集委員：入試広報室 鈴木

今回の言葉

**Inside myself is a place where I live
all alone and that is where I renew
my springs that never dry up.**

自分の中に、決して涸れることのない泉がある。

パール・サイデストリッカー・バックは、アメリカの小説家。南長老ミッション派宣教師の両親と中国に渡り、そこで育つ。処女作『東の風・西の風』に続き、1931年に代表作『大地』を発表して1932年にピューリッツァー賞を受賞。『大地』は『息子たち』『分裂せる家』とともに三部作を成す。1938年にノーベル文学賞を受賞した。



Column

この言葉にある『泉』とは、自分の中にある『情熱』を指すのだと思います。しかし、体調が優れない時や、気分を害する出来事に遭遇した直後など、誰にでも“今日は乗らないな…”と思う時があると思います。自分も同じように振り返って考えてみると“決して涸れることのない”というほど常に情熱を持って毎日過ごせているかと問われると、自信を持って『YES!』と答えられない部分がありますが、私はそれを悪いことだとは思いません。休憩せず走り続けていたら必ずケガをします。心の休憩も絶対に必要なことです。

パール・バック自身にもきっと同じような時があったはずだと思います。では、なぜそこまで断言できたのかを考えてみると、2つの理由が浮かんできました。1つ目は『本当に情熱的な人』ということです。湧き続けるエネルギーと溢れんばかりの才能から次々にアイデアが浮かんで休憩する暇なんてなかったのかもかもしれません。2つ目は『涸れる＝冷めるではない』ということです。情熱も一つの“感情”であり、人間が感情をゼロにすることは不可能に近いことだと思います。そういう意味では、コンディションが悪い時に私たちが感じてしまう“ダメだ”という感覚は、テストでいう0点とは違うことを理解しておく必要があります。確かにエネルギー不足という状態はあります。しかし、絶対にゼロではありません。『とにかく自分が今出せるベストを追い求める』という思いを持ち続けることが重要であり、それが高い水準で安定した力を発揮できる自分作りへの近道なのではないでしょうか。よく“チャレンジ精神”という言葉を目にしますが、失敗に終わったチャレンジを多く経験しなければ本当の意味でのチャレンジ精神は鍛えられないのかもしれないですね。みなさんの中にも決して涸れることのない泉はあります！